

【農林水産委員会における質疑内容】

1. 地形条件の不利な中山間地域のほ場整備を進めるに当たり、地域全体の農業者の理解を得ながら進めるための対策について（答弁者：政府参考人）
2. 中山間地域の農地の集積・集約化の対応について（答弁者：政府参考人）
3. 地域計画策定に向け、地域で徹底した話し合いが行われるための支援策について（答弁者：金子農林水産大臣）

○山田俊男君

山田俊男です。本日は、質疑の機会をいただき、委員各位に感謝申し上げます。

どうしても質疑しておきたい事項がありまして、それは、我が国の水田農業においては分散錯圃をどう克服するかということです。とりわけ、担い手の圧倒的な減少、さらに米価の低迷が続いており、機械化も含めてコストの削減と規模拡大が必須であります。

私のところにも、深夜、米価が下がって、これでは営農を続けられないとする悲鳴の電話が二本も三本も掛かってくるということがあります。また、百ヘクタールを耕作する大規模経営をつくり上げたが、米価の低迷と生産資材の価格上昇で、もう死に物狂いだと、そうした声を深夜、ある一人からは一時間にわたって伝えられた次第でありまして、本当に申し訳ない限りであります。

本日、私が質疑したいのは、中山間地域において規模拡大や利用集積をどう進めていくのかについてであります。

今国会には農業経営基盤強化促進法等の改正法案が提出されております。そこでは、分散錯圃の状況を解消し、農地の集約化等を進めるべく、地域計画の策定や農地バンクの活用が提案されています。そのことに私も全く異論はありません。しかし、我が国に圧倒的に多い中山間地域の基盤整備と圃場面積の拡大は容易ではないという問題があります。

実は私は富山県の小矢部という倶利伽羅峠のすぐの村に住んでおるわけですが、私の実家も山間の水田を保有しておりますが、狭小で不整形な水田が入り組んでおり、台風で私の所有する山の木が隣の水田に何本

も倒れまして、相当の負担を行ったことを記憶しております。私が負担したわけじゃなくて、おやじとじいさんが頭くっつけて悩んでいましたが、それをよく覚えております。

私の故郷に限らず、全国の田んぼはこうしたところが多くあります。そういった狭小で不整形な水田のある中山間地域においても、土地改良事業により農地を整備していくことが可能だし、可能かもしれない、こんなふうに思います。しかしながら、中山間地域は傾斜などの地域条件から区画整理による規模拡大が難しく、また、平地と比較して事業費も掛かることから、農業者の中にはその負担に耐えられない方もいらっしゃるのではないかと思います。山に戻すような話も随所に出てくる、そんな状況にあります。

こうした中で、地形条件の不利な中山間地域の圃場整備を進めるに当たり、どのように地域全体の農業者の理解を得ながら進めようと考えているのか、農林水産省の見解を伺います。

○政府参考人（牧元幸司君）

お答えを申し上げます。

この中山間地域につきましては、平地と比較をいたしまして傾斜地、狭小な農地が多く、まとまった農地が少ないということから、一般的にはこの圃場の大区画化や農地の集積、集約化によります農業経営の規模拡大が容易ではないということ、また、平地と比較いたしまして事業費が高くなる傾向にあるということ、これはいずれも委員御指摘のとおりかというふうに思っております。

このようなこの中山間地域の特性を考慮いたしまして、圃場整備事業の受益面積要件が平地では二十ヘクタールとなっておりますところを中山間地域では十ヘクタールに緩和をいたしますとともに、平成三十年度に創設をいたしました農地中間管理機構関連農地整備事業につきましても同様に受益面積要件を十ヘクタールから五ヘクタールに緩和をいたしまして、圃場整備の事業化を促進をしているところでございます。

また、この圃場整備事業の補助率につきましては、平地におきましては五〇%でございますが、中山間地域では五五%と、五%かさ上げすることによりまして、農家の負担率につきましても、平地ではこの一二・五%をこの中山間地域では七・五%ということで、五%軽減をしております。加えまして、この農地集積率に応じました促進費を措置することで更に農家負担の軽減を図っているところでございます。

これらに加えまして、粗放的な農地利用なども含めまして、中山間地域の持続的な農地利用を促進する観点から、従来は事業計画の策定の支援期間を最大二年間といたしていたところでございますが、令和四年度

よりは最大四年間とすることといたしまして、中山間地域の圃場整備につきまして地域の農業者がじっくりと話し合えるよう、計画段階の支援を強化をし、合意形成の促進を図っているところでございます。

農林水産省といたしましては、引き続き、中山間地域の課題に丁寧に対応しながら、地域の農業者の意向を踏まえ、圃場整備の促進に努めてまいります。

○山田俊男君

農水省としてもそれはそれで一生懸命考えているんだよ、ということを含めておっしゃっていただいたかというふうに思います。

地域条件の不利な中山間地域も含めて、もちろん圃場整備は必要であります。様々な工夫を凝らしても政策推進がなされなければなりません。農地の利用拡大や生産性の向上や担い手の所得の向上は、何としてでも必要であります。現場では、今もお話ありましたが、まだまだ困難があります。必要な政策について、しっかり詰めた取組が必要です。ややもすると、改めて力を得た規制改革推進会議等からの机上の主張や思い付きだけ、ないしはこれらの取組を抑制しかねないような発言が出ておるやに報道があつたりしますので、これも非常に残念な話であります。

さきに述べましたように、私は山間地の農地の扱いの難しさを痛感しております。私の所有の山の木が、今は私の所有になっていますが、隣の水田に倒れ、相当の負担を行ったことを記憶しているからであります。しかし、その山と田んぼの問題も、今は何も解決しておりません。まあ私がだらしがないんですかね。同様なことは再び起こりかねないし、全国的にも私は生じているのではないかというふうに思います。

そこで、中山間地域は担い手も少なく、分散した狭小な農地について集積、集約化を進めていくことは、今申し上げましたが、容易ではありません。しかし、中山間の農村が直面している状況を踏まえれば、手を着けられないから自治体の判断に委ねるということではなくて、国として、中山間地域の農地の集積、集約化を進めていくことは待ったなしの課題であろうかと思えます。

農林水産省として、努力されているということについては私はよく承知しているつもりであります。更なる中山間地域の農地の集積、集約化にどのように取り組んでいくのでしょうか。大変困難な条件がある中でどんなふうに丁寧に進めていくのか、どんなふうにお考えでおいでになるのか、それをお聞きしたいと思えます。

○政府参考人（光吉一君）

お答えいたします。

中山間地域におけます農地は、平地に比べまして傾斜地や狭小な農地が多いというのを、委員御指摘のとおりでございます。一方、この中山間地域、我が国全体の約四割を占めており、国土保全などの多面的機能の発揮の観点からも大変重要な役割を担っていると認識しております。

このような中山間地域におきましては、中山間地域の多様な取組を総合的に支援いたします中山間地農業ルネッサンス事業、あるいは地域の共同活動などに対する多面的機能支払交付金や、中山間地域等直接支払交付金の交付などの支援策を講じているところでございます。

一方、中山間地域を中心に今後地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される中、農地が利用されやすくなるよう、農地の集約化等に向けた取組の加速化が待たなしの状況というふうに考えております。

このため、地域の話合いによりまして目指すべき将来の農地利用の姿を明確化し、それを実現すべく、地域の内外から受け手を幅広く確保しながら、農地バンクを活用した農地の集約化等を進めていくことが必要と考えており、そのための関連法案を国会に御提出したところでございます。

この法案と併せまして、農地バンクと連携をした農家負担ゼロの基盤整備ですとか、畦畔除去や暗渠排水などのきめ細やかな条件整備、あるいは中山間地域において要件を緩和しております農地バンクの地域集積協力金、こういったものなどの支援策を講ずることによりまして、中山間地域におけます農地の集積、集約化を進めてまいりたいと考えております。

○山田俊男君

局長からお話がありましたが、私は農林水産省も、まさに農林水産省である故をもってということもあると思いますが、大変なそれは工夫と努力をやってきているというふうに思います。ましてや、この長い歴史の中でこうしたことがずうっと続いてきたわけですからね、そのための山間の基盤整備だったり道路の整備だったり、水の管理だったり、いろんな面での取組があったということは承知しております。

ところで、私、この正月に息子がどうしても田舎の山を見たいなんと言っていて、殊勝なことを言うもんですから、私は車運転できないんですが、息子に運転させて、私がそれこそ幼い頃遊ばせていただいた、かつまた、山へ訪ねて行っていろいろ手伝ったりもした、その地域の状況を車で見に行った次第であります。まさに倶利伽羅峠の麓であります。

何とですね、いや、びっくりしました。ともかく、斜面があって、道路があって、その間は低い畑がずっとあったわけですね。私も何度かそこへ収穫に行ったことがありました。私の所有になっているのか、じい

さんの所有になったまま、そのまま放置してあるのか、どなたかが所有されているのかよく分からないんですよ。ただ、ここには畑があったなということだけ分かっている。

ところが、ともかく本当にどうなっているのか、あれですよ、太陽光発電がひん曲がっていたりする。だから、山の水でだあっと砂が流れているわけよ。川はもう埋まりそうですよ。これはびっくりしました。一体我が国の国土管理はそれどうなっているんだろうかということ、いやいや、政治家として情けない話ではありますが、初めて気付いて愕然とした次第であります。

当然のこと、国土交通省の審議会のメンバーにも出させてもらっていますので、その旨も含めましてしっかり発言してきたという経緯があるわけですが。それほどひどいところじゃなくたって、全体の中でそうしたことごとがあるんだろうというふうに思うわけですから、これをどんなふうに乗切っていくのか。政治の力で、政策の力で、それから関係団体、役所の努力で乗切っていくのか、ということを実際に考えなければいかぬということを感じた次第であります。

農水省は農業経営基盤強化促進法の改正案を出しておりました。人・農地プランを地域計画として法定化して、市町村が農業者や関係者による協議の場を設け、将来の農業や農地利用の姿について話し合うこととされています。地域で徹底して協議し、地域ごとに農地の利用について考えていく。そして、不耕作地を生まない、放置されたままの荒廃を解決するというものについてもしっかりと話し合っていく。そのため、自治体、所有者、耕作者、担い手グループや法人等がJA、農業委員会や土地改良区などと一体になって知恵を出す、自治体も国もそうした地域の話合いを支援するといった仕組みをつくっていくことが本当に必要なと思います。もう既にあるのかもしれませんが、具体的に目に見えるような仕組みをしっかりと示して、そして、こうした取組を全国運動として進めていこうではないですか。これらについて、それこそ皆さんと一緒にしっかりと頑張っていきたいと、こんなふうに思います。

ところで、金子大臣に御質問させていただきたいわけですが、地域での徹底した話合いが行われるよう国が必要な支援策を講ずることが、まあ国にばかり頼るわけじゃありませんが、そういうことがやっぱり第一歩として必要かというふうに思いますが。地域計画の策定に向けた地域の話合いがまずないと毛頭進まないわけでありまして、この地域の話合いをどのように推進していくんでしょうか。これを、是非大臣の見解をお聞きしたいというふうに思います。お願いします。

○国務大臣（金子原二郎君）

山田の農林水産委員会質疑

高齢化、人口減少が本格化しまして、地域の農地が適切に利用されなくなるおそれがある中で、各地域において農業者や関係者が将来の農業の在り方を徹底的に話し合いをし、農地が利用されやすくなるような集約化を図っていくことが重要とっております。

このため、今回提出した法案におきましては、市町村が、農業者、農業委員会、農地バンク、農協、土地改良区の関係者の話し合いを踏まえて、将来の農業の在り方を明確化した地域計画を定めまして、それを実現すべく、農地バンクを活用した農地の集約化等を進めていくこととしております。

地域計画の策定に当たりましては、農業者の皆さんとしっかり話し合っていただけのように、地域での話し合いを進めるための市町村の取組や農業委員会による農地の出し手、受け手の意向等の把握、農地バンクの体制整備等について、国もしっかり後押ししていきたいと思っております。

今議員からいろいろ中山間地域についてのお話がありましたが、この法案でもうたっているように、やっぱり市町村が大事だと私は思っているんですよ。自分たちの地域をどのように守っていくか、町づくりをどのようにしていくかと。そういった中山間地域の中で、もう人口がないところもあります、ある程度の集落のところもあります。そういった地域地域によって、積極的にやっぱり市町村が地域の皆様と話し合いして、そこにJAも入って、総合的な開発を考えていかなないとなかなか難しい。

私の長崎県見ていまして、非常に積極的にやっている首長さん、そうじゃないところによって地域随分違いますよ。ずっといろいろと町歩いてみても、中山間地でも本当によく政治が届いて、町ごとにいろんな催しをやって人のにぎわいをつくったり、そして、時には加工品を作って地域の特産を売ったり、本当に努力している地域とそうじゃない地域とがあります。だから、そこはやっぱり、地域のやっぱり市町村長さんのそういった取組というのは私は必要じゃないかというふうに思っております。

ただ、人口が減ってしまった、もう今言ったような荒れ地になったところをどうするかというのは、これはやっぱり県と一緒に考えていかなきゃいけない問題かと思っております。

○山田俊男君

大臣から率直な、かつ熱いお話をお聞きすることができました。大臣の中には、この問題の所在といいますか、対策を何としても必要だぞという思いが私は込められていたというふうに思います。

どうぞ、大事な大事な国土であって、山であって川であって道路であって、生活の場でもあります。どうぞ、これをどんなふうにかちっと活

参議院 農林水産委員会／2022年3月16日

性化するかということについて、格好いい話じゃありませんが、しかし、全力を挙げようじゃないですか。

ありがとうございました。